

AOMORIのお宝コンテンツ魅力発信プロジェクト



現状と課題

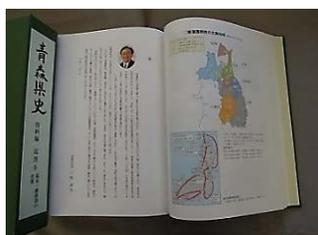
◆ 青森県史の刊行は、平成29年度に全36巻をもって終了。膨大な史資料（約72,000点）については、様々な分野での利用価値が認められる。

◆ 地域の文化財は貴重な観光資源であるが、地域住民の理解不足から積極的に活用されていない。（例：盛美園に代表される津軽地方特有の様式である大石武学流庭園など）

・県民の共有財産である史資料を、手軽に検索・閲覧できる環境整備が必要

・住民(特に若い世代)が地域の文化財に興味を抱き自ら情報発信できる人財の育成が必要

事業内容



1 青森県史デジタルアーカイブスの構築

※マイクロフィルムのデジタル化について



マイクロフィルム
(題名別冊：大和亭
真工美術)

デジタルデータ化



ウェブ上で簡単に
閲覧が可能に!



★いつでも簡単にウェブ上で閲覧することが可能に。

★保管するフィルムの劣化を防ぎ、半永久的な保存が可能に。

・貴重な史資料を利活用しやすい環境の整備

→まちおこしの企画など、様々な分野での活用を促進

2 高校生による文化財魅力発信

・地元の文化財を、高校生が調査研究（※）し、その成果を発表会形式で地域住民に情報発信

※歴史的背景の研究や実地調査、情報発信のための写真撮影、観光資源としての活用案の検討など

事業効果

■地域の歴史・文化財への理解促進



郷土愛の醸成・地域志向人財の育成

■新たな観光資源としての情報発信



交流人口の拡大